

個票 11 人工林から落葉広葉樹林への林相転換

〔森 2(2)①8-5 森 3(1)①2-1〕

(2011年作成・2014年追加)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
	遺伝子の多様性への配慮		遺伝子攪乱要因の排除・抑制
配慮事項	多様な緑地などの保全・創出		
	他の地域から動植物を持ち込まない・持ち出さない		
配慮事例	樹林の整備・管理による多様な植生の回復		
	緑化での郷土種の植栽		

●人工林から落葉広葉樹林への林相転換

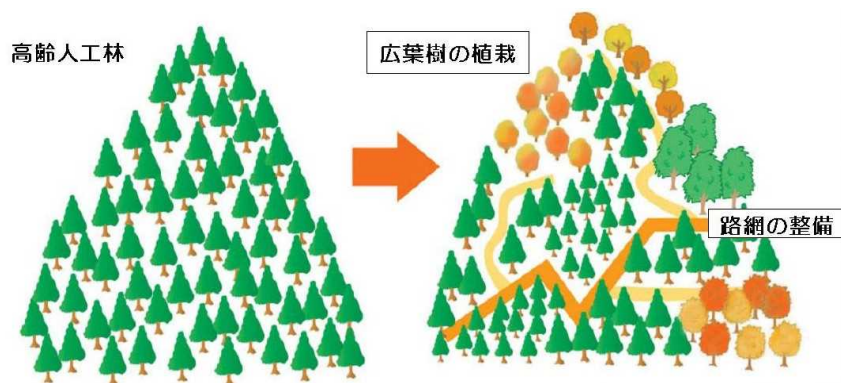
【解説】

伐採されずに放置されているスギ、ヒノキの高齢針葉樹一斉林は、大型の台風や大雪により気象災害等を受けやすい状況にあります。その一方で、広葉樹林は、過去の事例からも大規模な風倒害を引き起こしにくいことが報告されています。

このため、戦後に植栽された大面積に広がる高齢人工林など、針葉樹一斉林の気象災害等の危険性が高い部分をパッチワーク状に小面積伐採し、跡地に広葉樹苗木の植栽を行うことにより、気象災害に抵抗力があり、水土保持機能の高い森林を造成します。

この異種異齢の森林からなる混交整備によって、災害に強い森づくりが達成されるのみならず、開けた空間、うっ閉した森林、マント群落などの多種多様な空間及び生態系を創出し、種の多様性の確保にも貢献します。

内容



事業のイメージ

【具体的な工法・配慮事項】

●針葉樹林から広葉樹林への誘導箇所

- ・ 沢筋、生産林に適さない尾根
- ・ 風倒木被害地およびその周辺森林
- ・ 手入れ不足により、成長が止まり(形状比^{*1}が高い、樹冠長率^{*2}が低い)、今後とも良好な成長が見込めない森林

- 急傾斜地など針葉樹の適地でないところ
- ※1 形状比：樹高／胸高直径（形状比は70程度以下が気象害に強いとされる）
- ※2 樹冠長率(%)：樹冠長(立木の枝(生枝)のついている部分の長さ)／樹高×100（樹冠長率は50%以上が気象害に強いとされる）

●針葉樹林から広葉樹林への誘導方法

- 確実に広葉樹林へと誘導するため、植栽の手法を用います。
- 天然更新（萌芽更新も含む）で出現した高木性広葉樹は、優先して利用します。
- 自然散布、埋土種子等の天然更新による広葉樹林造成は、種子の供給源の配置や環境条件に大きく左右されるため慎重に取り入れます。

●植栽樹種

植栽する広葉樹の苗木は、郷土広葉樹の地域性種苗を使用するなど、苗木による遺伝子攪乱を防止するよう、遺伝子の多様性の確保にも配慮します。

- 郷土広葉樹の地域性種苗（現在県内で生産している樹種例：コナラ、クリ、ケヤキなど）
- 立地条件等に適応した高木種（例：山腹上部 コナラ、山腹下部～谷 ケヤキなど）
- 深根性や樹幹支持力の大きい樹種（例：深根性 コナラ、ミズナラ、クリ 樹幹支持力 大 ケヤキ、イロハモミジなど）

【事例】

【場所】

兵庫県養父市

【環境配慮の内容と方法、工法】

- スギ・ヒノキ人工林を伐採し、コナラ・ヤマザクラ等を植栽。



参考資料

- 1 「災害に強い森づくり事業検証報告書」兵庫県 2010
- 2 「災害に強い森づくり指針」兵庫県 2005